

元の理～この世の原理原則～

作成途中... ©小林真

この世の事象・現象は、十全の働きで全て解くことができる。天然自然の理(表に現れる働き)と心の理(陰の働き)は密接に連動している。見聞きすることや身上・事情から、心の癖性を悟り、自らのいんねん、運命を切り替えていくことができる。天の理を尽くせば、直ぐに現実が変わってくる。どうかこれを陽気遊山の道を歩む一助に。

自分ではなく、相手や周りを立てる心。自分の正しさや努力してきた部分、真面目な部分(紅葉)を一旦捨て(落葉)、平生は柔らかく「阿保(ex.ボケ、いじられ役)、大事な局面では勢いよくつっぱる(裸木)。普段は相手や周りの緊張をやわらげ、明るく引き立てながら、大事な所で俊敏に足を運び、つっぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間との密接な連携が重要。落とす葉はいつれ養分となり、寒い冬を乗り越える為の自らの力へと変わる。

過剰(くもよみ/女 不足) : 物事を十分に見定めず、自分都合で引き出すとする為、不要なものまで引き出してしまふ状態。お節介、ありがた迷惑、過度な親切心

不足(くもよみ/女 過剰) : 欠点や至らない所ばかり目につき、十分に咀嚼しないまま優劣で判断する為、隠れた長所や本質を引き出せない状態。他人に対してなら見下す心(≒優越感)、自分に対してなら過度にへりくだる心(≒劣等感)差を嘲笑する心。威張ると胃が張る

→過剰&不足: 良さを引き出せない為、実らない無理が生じて嘔吐し伸びない

過剰(たいしよく天/女 不足) : 息(風)を切らない為声が声(肥)にならず、ただしつこく風が吹く状態。暴風・台風状態。過度な大声や話がぐどい状態。自分の声や意見が通らない。仕切らず風がしつこく吹く為、思い通りに動かせず、叶わない。身動きが取れない。他人の意見を聞き分け、嗅ぎ分けできない。聞き耳を立てられない。音痴状態。肥(声)をやり過ぎ、乾き切ってしまい枯れた状態。

不足(たいしよく天/女 過剰) : 過度に仕切って風(言葉)通しが悪い為、心がじめじめと腐り、周りを勇ませない状態。口をつぐんだり、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし切り口上、捨て言葉、誹謗中傷、湿気、陰気臭いしけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ

見えない陰でひたすらに動き、ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。求めず、冷静で、広大な海の心。落ち着き、潤う心。物事の起点となる働き。遠い先を楽しむ心。「心(根)」もまた見えない働き。「目は心の窓」眼は心根の現れ。

くにとこたち不足時(をもたり/母 強い時) : 熱中症、火事、火傷、猛暑、熱帯夜、火山噴火、地震、砂漠化、乾燥、ひび割れ、高血圧、過緊張、不眠症、眼の身上 etc.

大事な所で勢いよくつっぱり陰で周りを引き立て支える心

足役割。頭低く、影で下の方から支える土台の働き。物事が治まる理。

時句を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

湿気をひらひら乾かす、そよ風の働き。八方に言って勇ませ、聞いて楽しむ心

上手が話し上手に。勇み心を八方へ。物事が当たり前に思ってしまう状態

をもたり不足時(くにとこたち/父 強い時) : 冷え性、悪寒、低血圧、貧血、極寒、大雨、大雪、洪水、津波 etc.

見聞き、経験する事象、現象は、時代や人によって変わる。大事なことはその事象、現象が、どういう理で現れたのか、そして自分はどういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることである。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

心定めが全ての起点。朝起き陰徳の心 思いやりは水やり。 出直し(死)とは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。 天とは、普段見えない陰の働き。心もまた目に見えない陰の働き。天の理とは、見えない陰の働きの理のことであり、心の理のことである。

仕切る働き。瞼を閉じて冷静に思い切り、これから先を楽しむ心

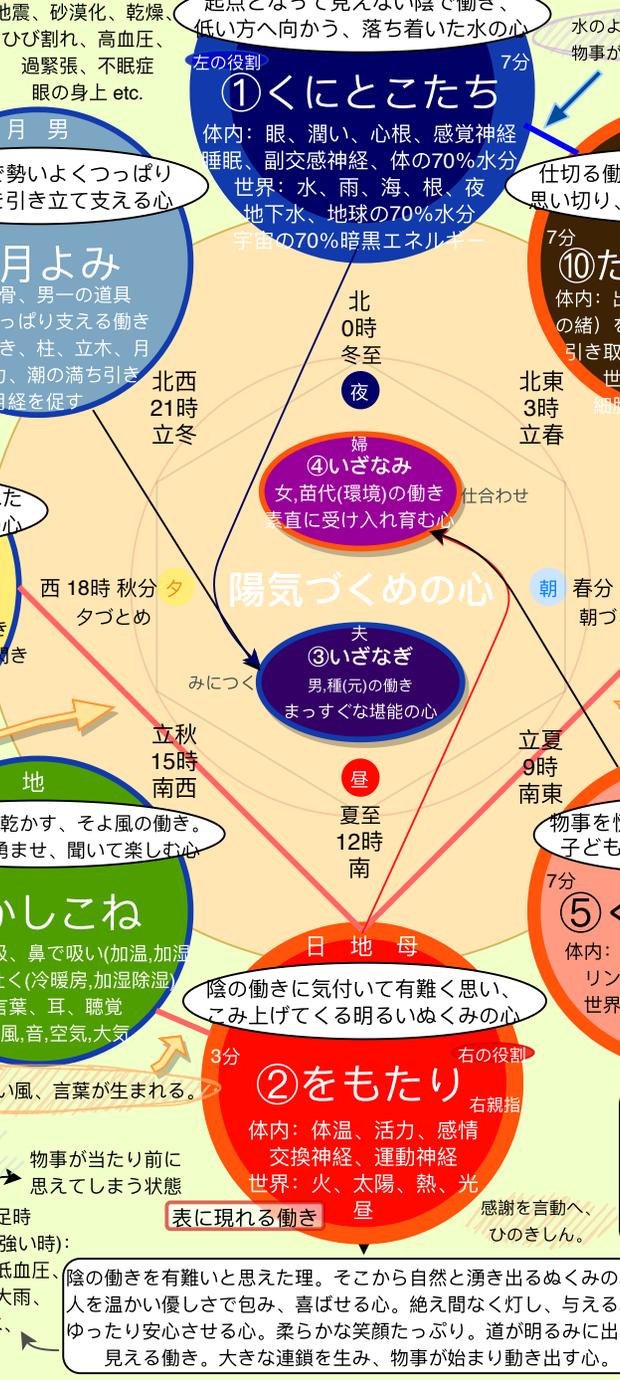
何ちわさわ言わなくていい。流れに沿っていけばいい。

必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して迎え入れ、老廃物は流す循環・順応の心

温かい心が消化・吸収・排泄を促し、物事の循環を生み出す。

人の助ける処に、自分が助かる。相手とともに、皆で助かっていく道。

心のほこり(※毎日払い、人にほこりを積まざるよう) おしい、ほしい、かわいい、よく、こうまんにくい、うらみ、はらだち、嘘、追従(心言動の一致)



見聞き、経験する事象・現象をじっくり柔軟な心で受け止め、どんな時でも阿保になって喜び、つなげる心。不平不満は繋がらない。見聞き、経験する中に自らのいんねんが分かり、自分の心遣いを切り替えていく時、陽気遊山に向かう新たないんねんに寄せられ、頼もしい繋がりが生まれてくる。そして相手や周りを張り切らせることができる。

自分をまとう欲(泥)を捨ていんねんを切り替える。

過剰(かしこね/男 不足) : 自暴自棄な所から風(言葉)通しが悪くなり、心が腐って、人間関係や交流を断ち切りすぎる状態。孤独、静寂、個人主義、そっけなさ、寂しさ、閉塞感、仕切り、個人の加減

不足(かしこね/男 過剰) : 恐れや執着から、割り切れず思い切れない為、先へ進めない状態。欲がある為、冷静になれず、瞼を閉じ切れない状態。踏み切れない、けじめがない。切れ味が悪い、先案じ、不安、心配、保守的

過剰(をふとのべ/男 不足) : 強引に物事を受け入れようとして、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食状態。無理矢理、強制、咀嚼せず、味わわず、消化しない為、引き出せない。吸収できない。血肉にならない本心で納得できない。物忘れの傾向。腹七分目

不足(をふとのべ/男 過剰) : 苦労や痛み(苦味や臭味、辛味、酸味など)に過剰に反応してその意味(味わい)を悟らず、新たな節目や物事をうまく飲み込めない状態。拒食or偏食状態。新たな可能性を捨て諦め、守りに入る心。好き嫌いや隔ての心。自分都合。また我が強く、過去や現状への執着から老廃物を流せない状態。便秘状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰&不足: 曇り、どんよりした気分。気持ち悪い、違和感。物事が進まず、朝を迎えられない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

【二つ一つの理と7分3分の均衡】
①くにとこたち: ②をもたり=7:3 (愛や感動を覚えたとき、体温37°C)
③いざなぎ: ④いざなみ=1:1 (夫婦揃って、二つ一つ)
⑤くにさづち: ⑥月よみ=7:3 (7割は柔軟に繋ぎ3割つっぱる)
⑦くもよみ: ⑧をふとのべ=7:3 (腹七分目が生きる力を引き出す)
⑩たいしよく天: ⑧かしこね=7:3 (声は息を7分切るから鳴る)